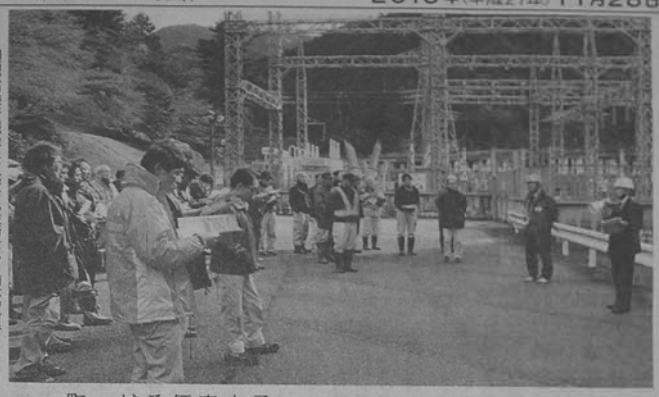
中日新聞　2015年（平成27年）11月28日（土曜日）

柿其水路橋や発電所見学

県内外の技術士ら

日本技術士会長野県支部の研修会が27日、南木曽町などであった。県内外の技術士ら約50人が産業遺産の水力発電所や土石流災害現場、治水対策工事現場などを見学した。（桜井祐二）



関西電力読書発電所を見学する技術士ら＝南木曽町で

南木曽など訪れ研修会　土石流災害現場も

技術士は、機械や電気電子、農業、上下水道など二十一の技術部門があり、各専門分野で計画や分析、評価などの業務に携わっている。日本技術士会の会員数は約二万人。

研修会は、昨年の南木曽町の土石流や御嶽山噴火などの影響で沈滞している木曽地域を励まし、地元の技術者らと交流しようと企画された。

一行は、木曽森林鉄道で使われていた上松町の鬼淵橋や南木曽町の柿其水路橋などの産業遺産を見学した後、関西電力読書発電所に到着した。

発電所では、関西電力社員が案内役を務めた。大正時代に電力王と呼ばれた福沢桃介が水力発電所として建設し、国の重要文化財に指定され、現在も電気を関西へ供給していることなどを説明した。

技術士らは、建物や稼働している発電機を見学。安曇野市の森口直樹さん(三九)は「建物の中の空間が広く、モダンで珍しい建物だ」と感心していた。

昨年の土石流発生現場の梨子沢では、砂防堰堤の補強工事なども見学した。

台湾・高雄で健康教室

松本市職員　高齢者を対象に

松本市と健康福祉分野で交流する台湾・高雄市によると、高雄市の人口は二百七十八万人。

市により、施設関係者ら五十人が参加。松本市の福祉分野の交流に関する覚書」の一環。丸山部長ら職員六人が二十五日から現地に滞在して高雄市幹部と面談したり、市内の介護拠点を視察したりしている。

一行は二十八日に帰国する。（成田嵩憲）

と話した。

教室は、七月に交わした「健康・福祉・教育分野の交流に関する覚書」の一環。丸山部長ら職員六人が二十五日から現地に滞在して高雄市幹部と面談したり、市内の介護拠点を視察したりしている。

一行は二十八日に帰国する。（成田嵩憲）

11/28 中日新聞（木曽版）

（第3種郵便物認可）

産業遺産と土石流現場を視察

「異業種交流に成果」技術士会県支部

日本技術士会長野県支部（小口雄並支部長）は11月27日、北信ブロック研修会を開催。木曽谷を訪れ、産業遺産の木曽森林鉄道・鬼淵橋や関西電力の読書発電所関連施設を見学したほか、昨年7月に発生した梨子沢土石流災害の復旧現場を視察した。

会員約40人が参加。はじめに訪れた鬼淵橋では、幹事の山浦直人氏が橋梁の生い立ちや構造上の特徴などを紹介。読書発電所の関連施設では、柿其水路橋や発電所の建物内部を見学し、関西電力の職員から、建設時の様子や建設に関わった福沢桃介・貞奴のエピソードを聞き、大正ロマンに思いを馳せながら、重厚な施設の威容に圧倒されていた。

戦前では日本最大級の規模を誇る柿其水路橋を視察

午後には、会員で県木曽建設事務所の塩入信一所長が梨子沢土石流災害のメカニズムと復旧対応について講演。続いて国や県、町が協力しながら復旧を進めている工事現場を視察し、国土交通省多治見砂防国道事務所職員の説明を聞いた。

今回の研修は、御嶽山噴火による「〝つながろう木曽〟応援運動」に賛同する目的も含み、木曽谷を見学会の場に選んだ。小口支部長は「産業遺産から災害現場まで盛り沢山の視察内容だったが、建設関連だけでなく異業種からの参加もあり交流ができた」と研修の成功を喜ぶとともに「これからも充実した研修を続けていきたい」と結んだ。

12/15 新建新聞